

「新幹線電車の交番検査周期見直しについて」申し入れ提出!

新幹線電車の交番検査周期見直しは、東海道新幹線開業以来、52年間距離ベースを2万キロから3万キロに延伸した事に留まっています。それは、高速鉄道の安全性について安全第一の姿勢が貫かれている証左といえます。

会社提案において「技術革新や新しいシステムの導入等により、機器の品質向上や耐摩耗性及び耐久性の向上による長寿命化を図ってきた」ことを根拠としていますがE2系は1990年代後半に製造された車両であり、20年を経過しています。また、職場からは「テストカーの検証結果が明らかにされない中、周期延伸実施ありきではないか」「北海道新幹線開業における青函トンネルの検証もされていない」「320キロの高速運転が行われる中、6万キロの延伸は大丈夫なのか」など現場組合員からは安全に対する不安や疑問が多く出されています。

JR東日本新幹線の「安全神話」を創り上げてきたのは、現場第一線の不断な努力があり、なし得ています。新幹線の安全性は労使の共通課題であり、より慎重に扱うべき施策と考えます。安全を低下させないために、職場からの検証運動を強化し交渉にのぞみます。

新幹線交番検査の周期延伸ができる根拠を明らかにします!
グループ会社の労働条件の向上と、安全な車両が提供できる検査体制を求めます!



申し入れ項目

1. 新幹線電車の交番検査周期見直しを行う目的と課題を明らかにすること。
2. 周期延伸の根拠となっている各系式車両のテストカーにおけるデータを示すこと。
3. 周期延伸の実施はE5以降を対象とし、E2系、E3系はE5系以降を検証した上で実施すること。
4. 周期延伸の実施時期は全般検査終了時から周期延伸を行うこと。
5. 各新幹線車両センターで施工している交番検査の整備基準、作業標準、マニュアル等各系式車両を統一し交番検査を実施すること。また、全般検査、台車検査出場時の消耗品の基準値を見直すこと。
6. 周期延伸に伴う消耗品の取替など仕業区に負担をかけないこと。また、仕業区の体制を強化すること。
7. 周期延伸に伴いグループ会社の業務量減少を補うための業務量を確保すること。また、グループ会社がサービス品質向上のための修繕ができる体制を構築すること。
8. 周期延伸を実施以降、問題が発生した場合速やかに対処し検証を行うこと。

職場からの議論を積み上げて、新幹線の安全を守りぬこう!